

(様式例2)

## 平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

### 自己評価

|  |   |                               |                 |
|--|---|-------------------------------|-----------------|
| 1 学校教育目標   | 誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体のおかげに、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。<br>このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。<br>(1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。<br>(2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。<br>(3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。   |                               |                 |
| 2 評価する領域・分野  | 進路指導  |                               |                 |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | ・ 景気悪化にともなう新規高卒者の厳しい採用状況が今年も続く予想され、採用試験対策の強化が必要とされた。<br>・ 進路情報の提供や進路啓発、指導の状況については、生徒・保護者から概ね評価いただいている。  |                               |                 |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | 学年部と連携した採用試験対策の強化とインターンシップなど全職員による進路啓発事業の効果的かつ円滑な推進   |                               |                 |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制   | ・ 主任会での意見交換、連絡調整<br>・ 学年会との密な連携   |                               |                 |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組  | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |                               |                 |
| (1) 基礎学力補習や面接指導の強化<br>(2) 地元製造業の企業との連携によるインターンシップ等進路啓発事業の開催  | (1) 就職・進学希望者の内定達成度<br>(2) 生徒のアンケートや感想文、企業の方の評価見届け職員からの報告からその効果を確認   |                               |                 |
| 8 取組状況・実践内容等   | 9 評価視点  | 10 評価                         |                 |
| ・ これまでの一般常識課題考査実施に加え、3年生に対する朝学習の実施(キャリアタイム)<br>・ 難関企業受験に向けての特別面接指導の実施<br>・ 大垣地域合同企業展の開催<br>・ 1年生全員対象の班別企業リサーチの実施<br>・ 2年生全員対象のインターンシップ事業実施<br>・ 進学補習、模擬試験の実施 | 生徒の進路希望を成就させることができたか。<br>生徒の地元企業の活動に対する理解や職業観が深まったか。<br>生徒のマナーやコミュニケーション能力が高まったか。   | Ⓐ B C D<br>A Ⓑ C D<br>A Ⓑ C D |                 |
| 11 成果・課題   | 一次試験不合格、途中で進路変更も一部あったが、生徒の就職・進学に対する希望をほぼ叶えさせることができた。<br>採用試験不合格の理由や合格においても一部に指摘されたことに、元気のなさやコミュニケーション能力不足がある。企業が工業高校生に求める大きな要素として捉え、一時の面接指導ではなく、企業での体験を含め、日頃の高校生活でそれを改善、延ばしていく指導体制が望まれる。<br>地元企業との連携によって行っている啓発事業について、不景気によって少しずつ協力を得られない企業が出てきている。生徒全員分の製造業を中心としたインターンシップ等の受け入れ先の確保が課題である。 |                               | 総合評価<br>A Ⓑ C D |
| 12 来年度に向けての改善方策案   | 他校の先進的取り組みを参考に、基礎学力やコミュニケーション能力を高めるための教材を積極的に活用し、難関の企業や大学に向けても通用する能力を育てる。<br>啓発事業の協力依頼先を拡充し、インターンシップや企業リサーチの派遣先候補を地域や生徒の関心に応じて十分選べるようにする。   |                               |                 |